

## ◆ 2020 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

23A-43

代表者：会長 川島 秀男

URL : [https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo\\_index025.html](https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo_index025.html)

### 1. 活動が必要とされた状況

太郎右衛門自然再生地は、都市部近郊で豊かな自然環境が残されており、地域固有の生物多様性の確保や自然と共生する社会の実現への貢献が期待される地域である。

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会は、イベント等の実施によって荒川太郎右衛門地区自然再生事業や協議会の活動を広く一般に知っていただくと同時に、多様な主体との協働・連携により自然再生地を継続的に維持していくことを目的に活動を行っている。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

#### (1) サクラソウ移植に向けた保全活動

除草活動（4月、5月、6月、9月、10月、11月、12月、1月：各15名）

移植活動（2月24日：川島町立つばさ北小学校4年生 31名）



除草活動（ヨシ刈り：1月）



サクラソウ移植活動（2月）



移植活動記念撮影（2月）

#### (2) イベントの開催

普及啓発イベント（10月18日：「親子で楽しくエッグハント」 参加人数：31名）

このイベントは、保育園児が収穫した荒川の在来種の種が入ったエッグを見つけ、自然再生地に種を蒔くことで自然再生の取り組みの一端を担っていただいた。また、桶川西高等学校と連携し、放送部が司会を行い、科学部が水生生物の観察会を実施した。



### 3. 活動の成果

これまでの維持管理活動や多様な主体との協働・連携により、普及啓発イベントに加えて、自然再生の取り組みに参加していただけるようになってきたと捉えている。

### 4. 今後に残された課題

太郎右衛門自然再生地の豊かな自然環境を保全・再生していくための仕組みや体制について、引き続き検討していく必要がある。また、多様な主体が参加し、自然再生地での取り組みを実感していただけるような条件整備を整えていく必要がある。